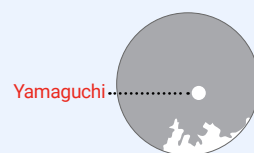


教育プラットフォームとして Google for Education を活用し 主体的・協働的学びを実践する野田学園中学・高等学校

山口県の中心部に位置する野田学園中学・高等学校は、1877(明治 10)年創立と長い歴史を誇る私立中高一貫校です。生徒数は中学 222 人、高校 796 人の計 1,018 人という規模で、15 年前に全教室でインターネット回線を整備し、GIGA スクール構想に先駆けて 1 人 1 台端末化を実施するなど、教育への ICT 導入に早くから取り組んでいます。同学園では教育プラットフォームとして Google for Education を採用し、Chromebook と Google Workspace for Education(以下、Google Workspace)を活用したより良い学習環境づくりに力を入れています。



野田学園中学・高等学校

山口県山口市野田 56
<https://www.nodagakuen.ed.jp/>

山口市にある 1877(明治 10)年創立の私立中高一貫校。裁縫所として設立され、女学校時代を経て戦後に中学校、高等学校を設置。1963 年には地域社会の要請を受けて大学進学を目指す男子部を設置し、創立 130 周年の 2007 年に中高一貫教育を開始した。創立以来継承されている徹底した人間教育が特徴。6 年制の中高一貫課程に加えて、高校のみの課程も用意している。生徒数は中学 222 人、高校 796 人の計 1,018 人、教職員数は常勤・非常勤合わせて 123 人。



916 台

01

早くから校内インターネット回線を整備し 教育への ICT 導入を積極推進する

創立を明治時代前半にまで遡る野田学園の歴史は女子校として始まり、時代の変化に応じて共学化や中学校設置を行ってきました。中高一貫教育を開始して以降は進学の実績が大きく伸び、2021 年度も 94 人が国公立大学、80 人が難関私立大学に進むという成果を上げています。

このように進学に注力する一方で、ICT 導入にも積極的に取り組んできたのが同学園の特徴です。2007 年に校舎を改築した際、教育の ICT 化を見据えて全教室でインターネットを利用できるように整備。2015 年度から高校の GI(グローバル インターナショナル)コースで、2016 年度からは中学校で、それぞれ生徒 1 人 1 台のタブレット端末導入をスタートしました。

さらに、2018 年度には Google Workspace を導入。翌 2019 年度の高校 1 年から年次進行で 1 人 1 台の Chromebook 導入を始め、2021 年度に高校の全生徒への導入が完了しています。Chromebook は各生徒が購入し、在籍中は Google 管理コンソール

野田学園中学・高等学校



理事長・校長
牛見 正彦 氏

で一括管理、卒業時に管理を解除する形で運用しています。

このように ICT 化を推進してきた流れを、理事長・校長の牛見正彦氏は次のように振り返ります。

「私自身が生物の教員として教鞭を執っていた当時から、映像が持つ教育効果を高く評価しており、文部科学省の IT 機器整備事業を利用して電子黒板を導入するなど、映像を活用した授業改善に取り組んできました。そのうちに時代が変わり、端末が低価格化してきたことも後押しし、1 人 1 台端末の導入を積極的に進

めるに至りました」

牛見氏は、教員主導による従来型の一斉授業からの脱却が、同学園の目指すところだと授業改善への思いを語ります。副校長の清水利宏氏はこう続けます。

「生徒が協働してグループで話し合いながら、授業も主体的に作っていく方向性に変えていきたいという思いがあります。現状はまだまだ教員主導の授業スタイルの方が教えやすいという教員もおりますが、そこを変えていくために ICT ツールを活用したいという考えがあり、Google for Education がそのベースになることを期待しています」

Google Workspace を導入する以前、中学校では他の教育プラットフォームを使用していました。しかし、実態は教員から生徒に課題を出すときに使う程度で、主体的・協働的な学びにつながる活用方法はできていなかったと、情報教育室長として ICT 活用推進役を担う宮原秀貢氏は回顧します。

野田学園中学・高等学校



副校長
清水 利宏氏

「学園全体でより広く活用できる教育プラットフォームを探していました。先進校を視察する中で、当時の G Suite (現 Google Workspace) は生徒 1 人 1 人の意見をリアルタイムに確認できることに可能性を感じ、かつ Google ドライブでのファイル共有を無料で利用できることも魅力的だったため、採用を決めました」

とはいえ、当時はまだまだクラウドサービスに対する理解が学園内で広まっておらず、クラウドとは何かというところから教員に理解してもらう必要があったと、教務課長の岡藤宏治氏は振り返ります。「研修を何度も実施し、たとえばインターネットにデータを保存するということに不安を感じる教員に対しては、『では USB メモリに保存すれば安全かということ必ずしもそうではなく、むしろ紛失の危険性がある』といった話を丁寧にしながら理解を促していきました」



02

Google Meet や Google Classroom が 多彩なシーンでポジティブな変化をもたらす

2019 年度から高校に順次導入していった Chromebook の選定にあたっては、どのような評価や判断があったのでしょうか。牛見氏が説明します。

「端末に関しても教員がさまざまな学校へ視察に出かける中で、とにかく立ち上がりが速く、丈夫であり、キーボードで文字入力できるため高校生にとって使い勝手がいいと評価し、Chromebook 導入を決断しました。また、管理性やセキュリティが高いことも重要なポイントでした」

加えて、すべてをクラウドで完結させ、生徒と教員、あるいは生徒間でファイル共有して協働作業を実現する環境を想定した場合、Google Workspace との相性が良く、同学園の目指す教育の

方向性に適していることも、Chromebook の選定を後押ししたと宮原氏は補足します。

Google Workspace と Chromebook を揃って活用できるようになったものの、初年度はなかなか定着しなかったといいます。

野田学園中学・高等学校



情報教育室長
宮原 秀貢氏

それが急速に浸透したきっかけは、新型コロナウイルスの感染拡大でした。2020 年 3 月から臨時休校期間に入らる中で、全クラス・全科目で Google Classroom のルームを作り、Google Meet を授業や朝礼に利用していくうちに、Google Workspace と Chromebook を組み合わせた活用が進んでいきました。

「濃厚接触者となって登校できない生徒を Google Meet でつなぎ、授業を行っています。自宅にいても授業を受けられ、"学びを止めない" 点で Google Meet はとても効果的だと感じます。学校に来られなくても他の生徒とつながれるところもいいですね」(岡藤氏)

その他、Google フォームを利用した授業評価や振り返りのアンケート、Google Classroom を通じた授業資料やテストの模範解答の配信などでよく使われているとのこと。啓発動画を見た

野田学園中学・高等学校



教務課長
岡藤 宏治 氏

あと生徒に意見を書き込んでもらい、それを全員で共有する使い方もしています。「人前で意見をなかなか言えない生徒も、この方法なら発言しやすいようです」と岡藤氏は評価します。

最近では Google Jamboard をよく使うと話すのは宮原氏です。「情報の授業で、たとえば問題解決というテーマを扱うとき、解決すべき問題をグループごとに話し合い、そこで出た意見を Google Jamboard で付箋を貼り付けていくことで、意見をまとめる使い方をしています。教員が気づいたことを別の色で書き込めますし、書き込んだ情報は授業の後で振り返ることもできるので、生徒たちもおもしろがってくれています」



03

Chromebook と Google Workspace の活用で学習が主体的になってきたことを実感

生徒が自発的に Google Workspace のツールを利用し始めるケースもあるそうです。「文化祭をリアルな場で実施できず、保護者も呼べない中、生徒たちがデジタル バンフレットを作成したり、Google サイトで Web サイトを作って公開したりしています。生徒会でもブログサイトを立ち上げて生徒に公開することを計画しているようです。このように自発的な活用方法が生徒のアイデアで生まれてくるところは、当学園のいい部分だと自負しています」と宮原氏は話します。生徒が能動的に Google Workspace と Chromebook をいかに活用していくか考え、実際に使い方が広がってきていると、岡藤氏も実感しています。

学習面での変化については、学習に向かう姿勢が主体的になりつつあるようです。紙のノートを回収することなく学習状況を頻繁にチェックできるようになり、教員からの課題提出やフィードバック、

振り返りアンケートなども手軽に行えることで、生徒たちに学習習慣が身につく、基礎学力が向上している確かな感触があるといいます。

一方、Google for Education は教員の業務にもさまざまなプラスの影響を生んでいます。導入の効果は数えきれないと、宮原



氏、岡藤氏は口を揃えます。たとえば Google ドライブで資料を共有することで、職員会議のペーパーレス化が進んでいます。生徒に渡す資料も PDF を用いており、いずれも印刷にかかる手間が大きく削減されているとのこと。Google フォームでのア



ンケートは集計の負荷をなくしますし、授業の理解度も Google Classroom で質問を投げることで簡単にチェックでき、それに対するフィードバックも即座に行えます。Google Workspace は校務用のパソコンからでも使えるので、そちらで作成した資料を手軽に共有でき、負荷の軽減につながっていると評価します。

今後について宮原氏は「授業内容や探究活動で生徒がまとめたものなど、ありとあらゆるコンテンツをアーカイブ化し、それらをもとに新たな学び、より深い学びを創造していけたら素晴らしいと思います」と語ります。

そして岡藤氏は、Google for Education の活用を通じてアクティブ ラーニングを推進できると語り、「教員には、勉強を教えるだけでなく、生徒と関わり、コミュニケーションを取りながら導いていくファシリテーターとしての役割が求められるようになるでしょう」と未来像を描きます。こうした未来を目指す道をともに歩んでいきたいと、Google のソリューションに期待を寄せました。

取材日: 2022 年 7 月 7 日

Google for Education

いつでも、どこでも、予算に応じて使える教育テクノロジーソリューションです。

☒ 簡単操作	☒ 手ごろな価格
☒ 高い汎用性	☒ 高い効果

1 chromebook

教育向けに設計され、授業向けに開発された軽量で耐久性の高い共有可能なノートパソコン

2 Google Classroom

教師と児童生徒向けに構築された学習プラットフォーム

3 Google Workspace for Education

時間や場所を問わず学校全体で共同利用できるクラウド型教育プラットフォーム

4 Chrome Education Upgrade

1 つの端末から同じドメインのすべての Chromebook を設定
シンプルなクラウド型管理コンソール

